

地獄の後は天国や

すると、皆も、僕に負けずと、
声が大きく、響きだした。

夕日が沈んでも、練習は続く。

七時に、練習は終わった。

僕は、そのまま着替えを持って、
急いで、風呂屋まで走り、一番乗りだ。

風呂にたっぶり一時間、
僕はぎりぎりまで入った。

夜のミーティングで、
卒業した三人の先輩から差し入れがあった。

「よう、今日は、頑張った」と言う顔だった。

ジャムパン、あんパン、クラッカーに、かき餅。

パクリ、パクリと、口いっぱい、
僕はうまそうに食べた。

この時は楽しかった。

「地獄の後は天国や。」

僕は、食べて、そう思った。
再び、新たに、「やらねばならぬ」と自覚する。